

u s h i m a d o

Т Е Р Е М О К

牛 窓 テ レ モ ー ク



※ ТЕРЕМОК...ロシア語で「ちいさいお城」

自主運営事業をしながら、入居者を増やし、
文芸的で公共的な交流の拠点を作ります。



前庭を遊歩道と広場に整備し、まちに開き
立ち寄りやすい空間を作ります。

01_① 運営体制

本事業は、株式会社 牛窓テレモークと株式会社 西舎の共同事業で行います。



業務内容

テナント事業

施設管理・窓口業務

ゲストハウス・カフェ事業

イベントディレクション

(映画・音楽・アート・クラフト・
デザイン・食・子供... など)

テナント事業

レンタルスタジオ運営

地域コミュニティの持続的
発展支援事業

音楽・書籍作品の企画・制作

管理責任者 小林 宏志
雇用スタッフ (運営スタート時)
パート・アルバイト

01_② 運営体制 <牛窓テレモーク 名前の由来>

テレモークはロシア語で 「ちいさいお城」

長らく牛窓に住んでいた文芸学者・西郷竹彦先生翻訳による絵本の
原題でもあります。

小さく住み心地の良さそうなお城を見つけたカエル、ネズミ、ニワトリ、
ハリネズミが力を合わせて、楽しく暮らしていくというストーリー。
そのお話を自分たちの暮らしになぞらえ、この集まりを「牛窓テレモーク」
と名付け、旧診療所建物を「ushimado TEREMOK」と名付けて利用する
予定です。



西郷 竹彦

さいごう たけひこ

文芸学者、児童文学研究者、ロシア文学翻訳家。
1920年鹿児島市生まれ。
幼くして両親に死なれ孤児として育つ。
上京後、土方などをして苦学、東京帝国大学
理学部応用物理学科に学ぶ。
敗戦時、ソ連の捕虜となり、モスクワ東洋大学で
日本文化・文学を教え、1949年帰国。
ロシア児童文学の翻訳を多数行い、のち文学教育
を中心として多数の翻訳、創作、論考、著書を
著した。
2017年97歳で没するまでの約30年間を牛窓で
過ごした。

『西郷竹彦 文芸・教育全集』全三十六巻
(恒文社) その他著書多数



<ロゴタイプ(仮)>

文芸的 で 公共的 な 交流の拠点をつくること

*文芸的 ... 芸術的・文学的を表す

時間をかけながら

work up

事業を進める中で
多様な人々を巻き込みながら
この場所にあった真のコンセプトを

時間をかけながら
作り上げていくことを
目指します

セルフビルディング
(町内外の人に呼びかけ
内外装に関わってもらう)
イベント開催
(単発的なマーケット・ライブ・展覧会)

仲間集め
(場所にあったテナント探し)

新たな芸術が興る

creative pot

この土地と人との関係性から
独自のインスピレーションを生み
新たな芸術が興るきっかけを作ります

文庫 / 小さな映画館 等
制作アトリエ (音源・映像・執筆・ものづくり)

よりどころを作り

mother port

住民と旅人がともに落ち着ける場所
日々の生活の中で立ち戻り
また新たな旅立ちができるような、よりどころを作ります

カフェ / ゲストハウス / 屋上休憩スペース /
リモートワークスペース (レンタルスペース・コワーキングスペース) /
子供たちが学び遊べる場所

文芸的、公共的、交流拠点が担える事柄

つながる

ここで創生される
事業、活動、イベントを通して、
地域のコミュニティーが
より親密になり、
牛窓内外の人々との交流が
促される。

学ぶ・あそぶ

小学校、幼稚園に近い立地、
また元病院という
シェルター的な建物の中で、
親子が安心して過ごせる
学び場、遊び場を
提供できる。

集う

屋根付きの広い場所が
少なかった牛窓において、
公会堂、ホール的な
集まりの場として、
イベント、行事を
行うことができる。

溶け込む

移住、定住希望者
(Uターン、Iターン)が、
牛窓でやること、働くことを見
つけることによって
地域へ溶け込み、生活の基盤を作る
手がかかりとなる。

働く

様々な業種のテナント、
施設を設置することで
小さいながらも多種多様な
雇用が生まれ、
自分にあった、人間らしい
働き方を見つけられる。

語る

牛窓独自の文化を
より創造的、国際的に
紹介することにより
ここで生まれ育った人々、
関わった人々全てが誇りに思い、
美しい想いとともに
牛窓を心の故郷として
語るすることができる。

02_①

事業計画

<運営理念と方向性③>

文芸的、公共的、交流拠点とエリアの関係



02_2

事業計画

<旧牛窓診療所の魅力>

《立地》



広い駐車場を有した旧診療所は牛窓の中央に位置し、どのエリアからもアクセスしやすい。また海岸沿いというロケーションから、海上交流の拠点としての可能性も持っている。そこから望む海、島、山々の光景は大変美しく、知的、情緒的な感覚を喚起し、創造的な力を育んでくれる。

《建物》



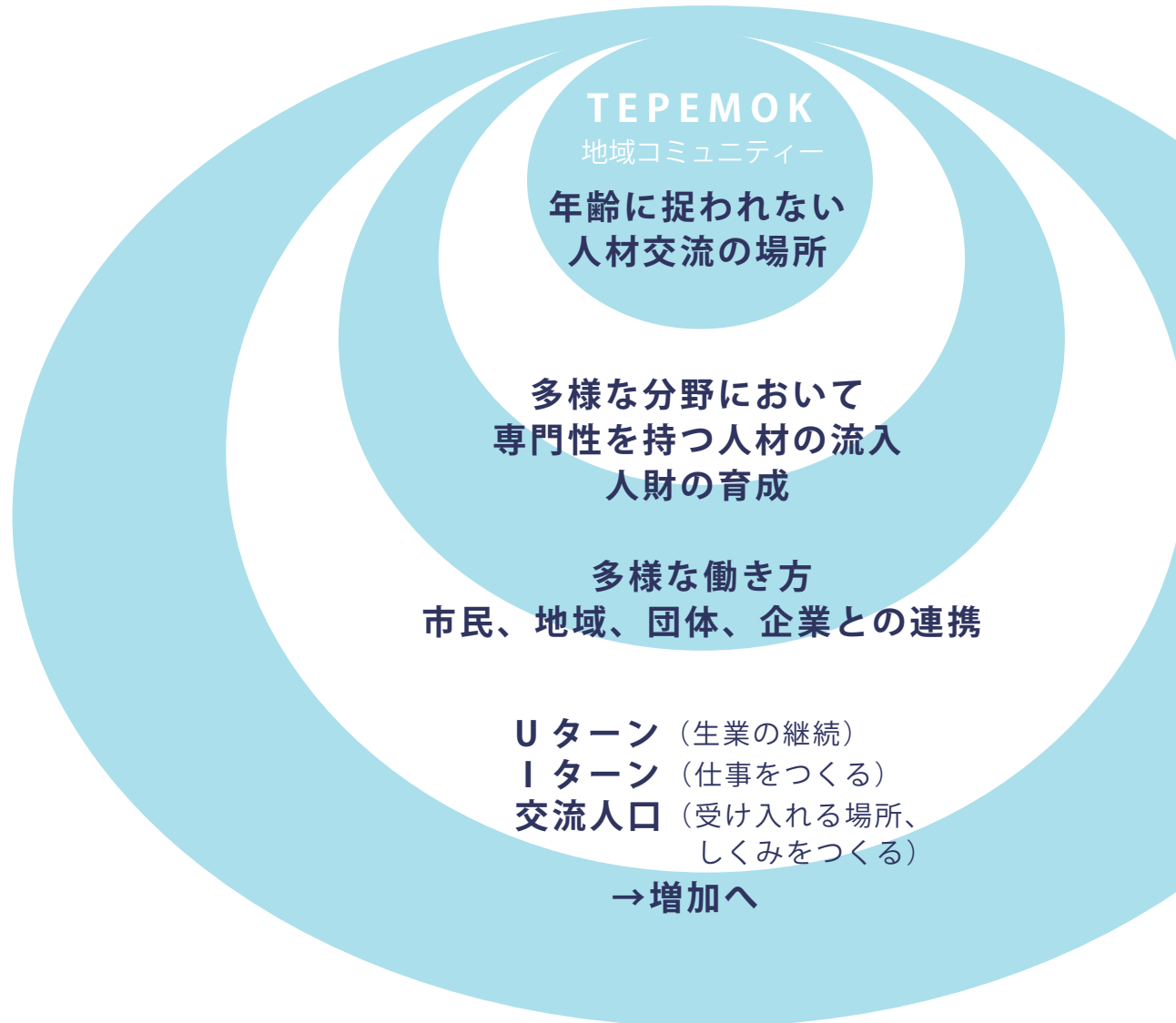
広く自由な旧館は交流を主とした人々の外的探求の場にふさわしい。反対に部屋をそのまま残した新館は書庫、鑑賞室など内的探求の場所にふさわしい。広い敷地、開放感のある屋上スペース、これらは人々の創造性を刺激し、膨らませていく。このような建物と環境とのバランスは人の営みに不可欠な文化を育む場所として、ふさわしい。

《営み》



病院で行われる、「生まれた命を守り、育み、傷つけば癒し、またその終焉を見守る」行為はとても人間的。また、文芸(芸術・文学)において「人が命の意味を模索しながら、その価値を創造する」行為も人間的。旧診療所の建物、土地はそのような人間的な営みを行う気質を持っている。

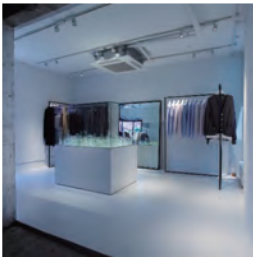
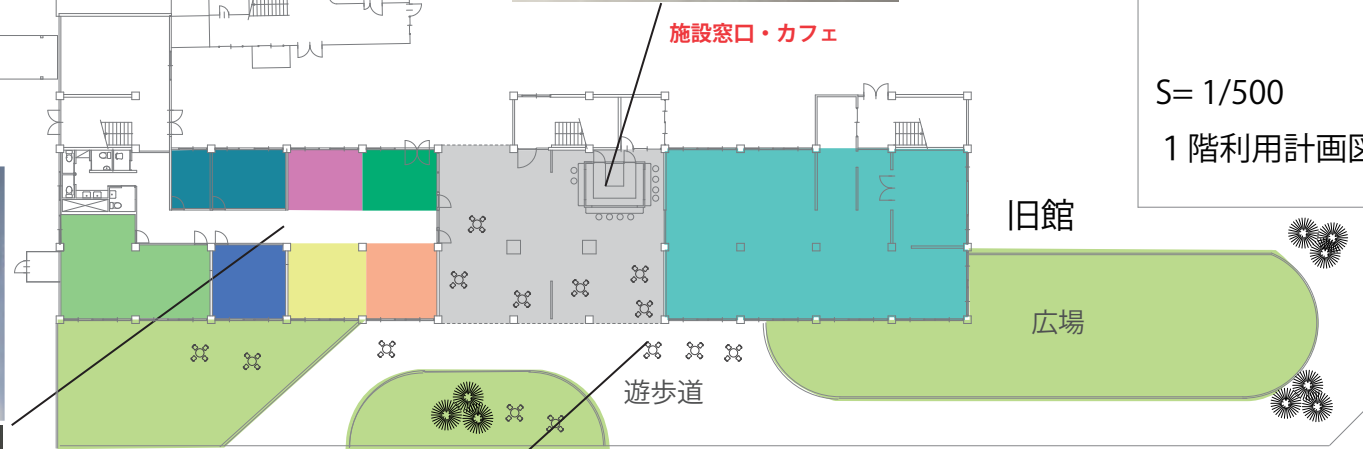
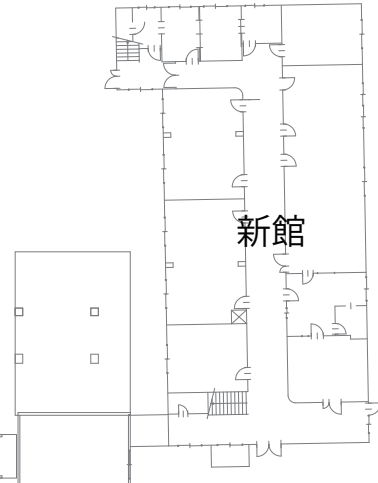
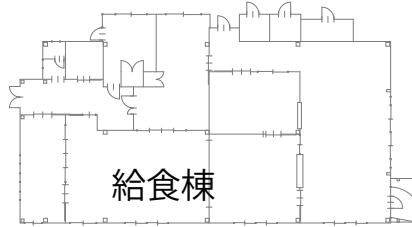
文芸的、公共的、交流拠点をつくることで
期待される波及効果



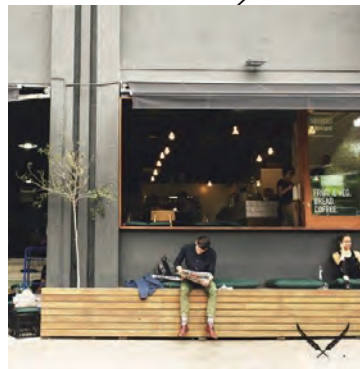
人が人を惹きつけ、
営みが次の営みを引き寄せて
いつまでも続く穏やかな交流の出現

03_2

施設活用イメージ

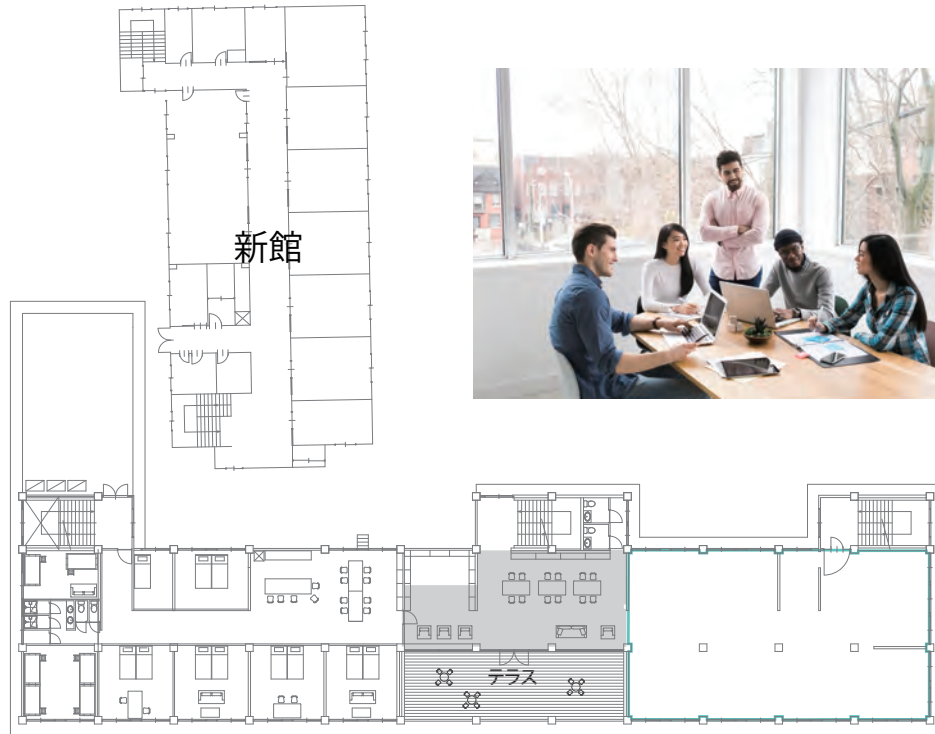


小さな店舗



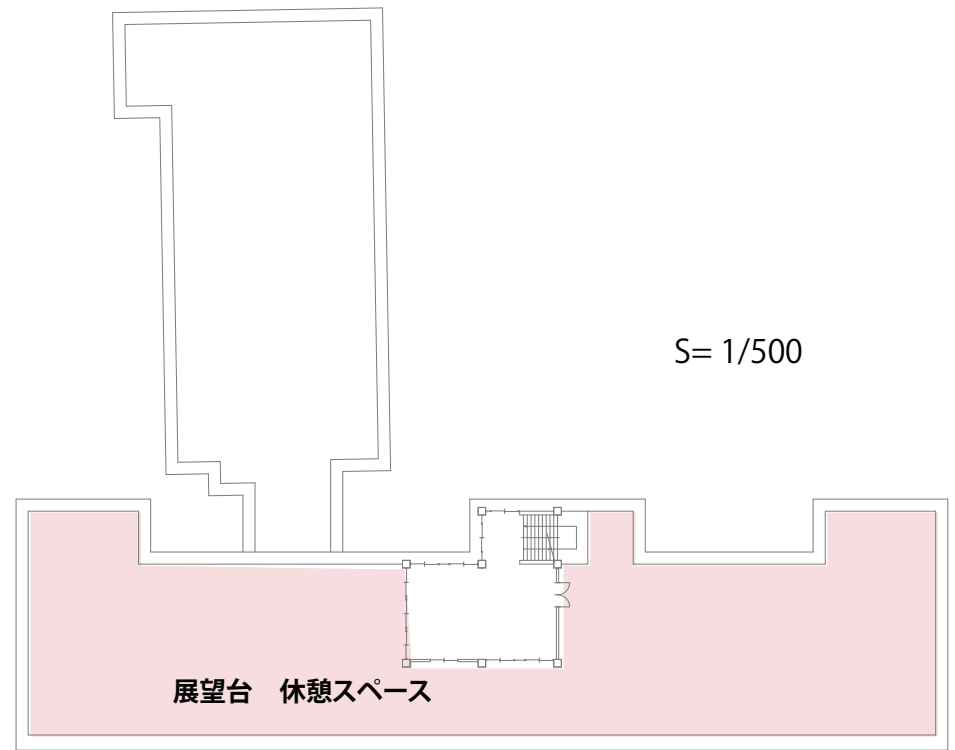
03_②

施設活用イメージ



03_②

施設活用イメージ



03_③

施設活用計画 <多目的利用例①>

小さな映画館



音楽ライブ



アート作品展示



03_③

施設活用計画 <多目的利用例②>

暮らしのワークショップ



子供たちのための教室



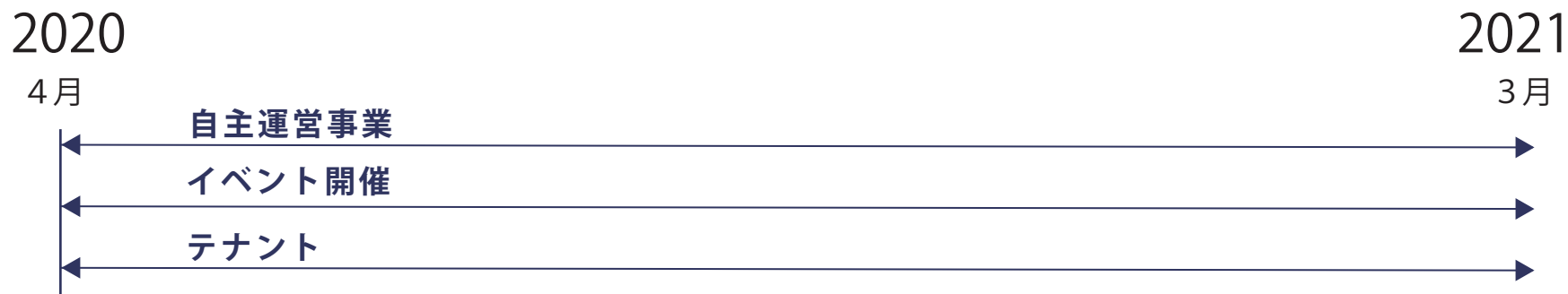
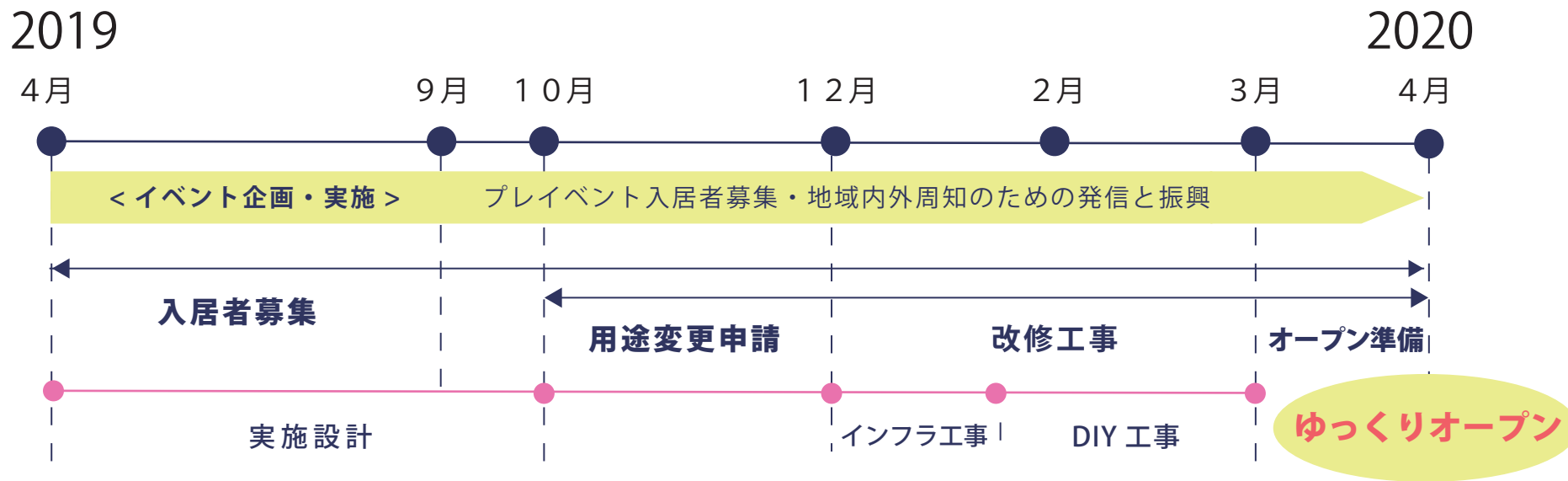
地域行事の上映会



DIY 工事



05 スケジュール



株式会社 牛窓テレモークの目指すもの

この地の魅力をかけがえのないものとする有志の集まりです。
この集まりの持ち味は、有志全員がこの地の光を浴び、風に吹かれ
空気を吸い、暮らし、商い、強く縁(ゆかり)に引き寄せられた者達で
組織されていること。

そして全員が、それぞれのスキルを通じて県内外の人材や情報に
繋がっています。

個々の専門性を持ち寄り、この地の風土が紡いできた文化に
タテ(過去から未来へ)、ヨコ(現代)ナナメ(応用)から愛の視点を注げること。
これらの持ち味を活かして
そこかしこに散りばめられた
この地の魅力がさらなる営みを
引き寄せる事業を営み
やがては他の地域にも好影響が波及することを目指します。

人が人を惹きつけ、営みが次の営みを引き寄せて
いつまでも続く、穏やかな交流の出現。
これがテレモークの目標です。